

第2回 荒川水系越辺川・都幾川堤防調査委員会

第2回 那珂川・久慈川堤防調査委員会

議事要旨

日時：令和元年 11 月 17 日（日）

9:30~11:30

場所：関東地方整備局 501 会議室

- 台風第 19 号による気象・降雨・水位の概況、国管理河川荒川水系越辺川、都幾川及び国管理河川那珂川、久慈川、茨城県管理河川浅川の河川管理施設等の被害の状況について、事務局（関東地方整備局）より説明を行った。
- 決壊箇所の原因特定のため、各河川の堤防決壊箇所において考えられる複数の要因（越水・浸透・侵食等）について、現時点で得られた堤防の被災状況や越水・噴砂等の痕跡等の情報をもとに議論を行った。
- 本委員会としては、堤防が決壊した 12 箇所についていずれも「堤防が決壊した主要因は越水によるものとする」との共通認識を得た。加えて、久慈川右岸 25.5k と浅川 2 箇所については、「堤内側の水が河川に戻る際に堤防を川裏側から越流することによって生じた決壊である」との共通認識を得た。また、浸透については引き続き地質調査の結果を踏まえた検討を継続することとした。なお、地質調査の整理に当たっては、今回の緊急復旧対策による埋戻しが含まれていないかも確認することとした。
- 越水時間及び越水深と決壊との関係や、支川の合流や水害防備林が水位上昇に与える影響、過去に実施された浸透対策の履歴や霞堤の履歴について確認していく必要があるとの意見が出た。
- 引き続き、本委員会での指摘に対し追加調査や検証などを行い、堤防決壊の原因を特定し、それに基づいて本復旧工法の方角性を議論していくことを確認した。